安田学園中学校

最寄駅｜両国　蔵前

共学校

学校完結型の学習環境に強み 多様な学び・探究・体験の場を用意

1923年に安田財閥創始者の安田善次郎翁が創設した、中高一貫の安田学園。自ら学び考え、創造的学力を形成し人間力を育む「自学創造」の教育目標を掲げている。

多くの生徒が学校内で学び、希望の進路を実現

進学実績の伸びが目覚ましい。2024年度は安田学園高校から国公立大や早稲田、慶應義塾などの難関私大に100名以上が合格（25年3月上旬現在）。「4年連続で東京大学合格者が出ました。東京科学大や京都大への進学希望をかなえた生徒もいます。また、医学部には9名が合格しています」と語るのは、志田憲一副校長。目指すキャリアに沿った大学にチャレンジする生徒が増えている。

〝学校完結型〟の学習環境の整備も特徴で、中1～高2の2学期までは、自ら考え学ぶ授業を核とした「学び力伸長システム」で基礎学力を固め、以降は「進学力伸長システム」により、第1志望の大学進学に向けた学習を主体的・意欲的なものにし、自ら考え学ぶ力を応用力の伸長につなげ、ハイレベルな進学力を身に付ける。

「塾や予備校に通わずとも大学進学までサポートする態勢を整えており、実際にどの学年も約8割の生徒は学内のみで学んでいます」（志田副校長）

そもそも安田学園では生徒と教員の距離が近く、日々のさまざまな疑問について尋ねやすい。

第2外国語を中学2年生から高校2年生までの希望者が学ぶ。フランス語の授業の様子

広報担当で、国語科を担当する工藤夏花教諭は「教員からも生徒に積極的に声をかけ、学習をサポートする習慣が確立されています」と言う。

「学習計画の作成や日常の悩みや出来事を記録する手帳を全生徒が持っており、担任も定期的に確認し生徒の様子を把握しています」（志田副校長）。発行元による手帳の活用方法などを発表するイベントへの参加も、生徒の楽しみになっているそうだ。

学習を支えるカリキュラムも充実しており、中1～高2を対象としたチェックテストはその一つだ。朝の15分間、英・数それぞれ週2日ずつ授業内容の定着度と学習習慣を確認し、不十分な生徒に対しては放課後に教員と卒業生のチューターなどが補習を行う。「チューターの多くは難関大学の現役学生で、総勢で20名が在籍。シフト制で生徒のケアに当たっています」（志田副校長）。中学生は18時、高校生は20時まで学校に残り自習室を使うことも可能だ。

夏期・冬期の長期休暇中には各科目の講習を用意し、高2全員・高3の希望者に対しては〝進学合宿〟も行う。

「高2の12月に開催する進学合宿では目標を掲げ参加する生徒がほとんど。合格に向け逆算し学習計画を立てたり、合宿中の時間の使い方も工夫して取り組み、最終学年の受験に向けた良い機会です」（工藤教諭）。隙間時間に担当教員が披露、伝授する受験経験や勉強のコツも生徒の参考になっている。

年5回の定期試験前の1週間は「独習ウィーク」とし、学習計画を立て朝と放課後の時間を学びに使う。年3回の学期末試験後は「独習デー」を設け、定期試験や到達度テストの結果から、弱点克服に向けた学習計画を立案し実行に移す。

また、英・数・国は中3の1学期までに中学内容を修了させ、集大成テストを実施。高校の学習に必要な基礎学力、自主的学習力を確立するため、早い段階から中学内容の復習を計画的に繰り返し行う。これらの手厚い支援が、安田学園が学校完結型と呼ばれるゆえんだ。

旧安田財閥からのつながりで毎年実施している日韓交流行事。ソウルなど現地に赴き、学生たちとプレゼンテーション作成も行う

生徒たちの体験を重視したグローバル教育

短期留学や語学研修などを通じたグローバル教育にも積極的に取り組み、生徒全員が6年間で1回は海外生活を体験する。中2～高2の希望者が対象の夏期ニュージーランド語学研修では、クライストチャーチに約2週間滞在。ホームステイをしながら平日は学校で学び、放課後・週末はさまざまなアクティビティに触れる。

中3の希望者を対象とした夏期ニュージーランド短期留学は、7～8月の約3週間、現地校で学ぶというもの。ホストファミリーとの交流もあり、異文化理解を深める絶好のチャンスだ。高1の希望者にはニュージーランドもしくはオーストラリアの現地校で、1月下旬から4月上旬まで、過ごす3カ月留学も用意する。

「現地校は1人1校、ホームステイも1家庭に1人なので、おのずと英語力が鍛えられます。渡航前は不安でいっぱいだった生徒が、『日本に帰りたくない』と言うほど大きく変わります」（志田副校長）

高1～2の希望者には、日韓交流プログラムも実施。夏休みに韓国側が訪日、冬休みに安田学園の生徒が訪韓して交流する。東京都内の観光などを計画し同世代と親交を深め、日本語や韓国語、英語で内容を発表する。25年度からは高1～2の希望者向けに、約1週間かけて国連本部などを訪問し、大学の特別講義を受講するニューヨーク研修も始める予定だ。

体験カリキュラムに加え、毎週35分間のオンライン英会話、中1～2全員が参加する英語スピーチコンテスト、全学年が参加する英単語コンテストは伝統的な行事だ。充実した内容は英検取得にもつながっており、中1の99%が4級以上、2年生の95%が3級以上、3年生の85%が準2級以上に合格している。

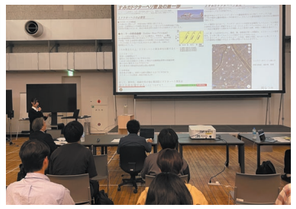
答えのない問いに向き合う探究プログラム

探究の授業では、個人やグループで気付いた疑問を理論的に探究することを学ぶ。中1では自然科学探究として、学校での生物の授業を経て夏休みには千葉県の海に赴き、疑問・仮説を考えた上で磯全体を観察し、生物の採集などを行う。中2では新潟県十日町市でトキについて研究する社会科学探究、中3ではグループごとにテーマを決めて現地を調査する地域研究、高1～2ではこれまでに学んだ探究力を活用して個人探究を行う。

「物理、地理、音楽、教育心理など13種類の中から好きなゼミを選ぶ仕組みで、近くに両国国技館がある縁から、元力士とそれ以外の人の性格の違いを研究した生徒もいました」（工藤教諭）

クラブ活動も活発で、中学男子バレー部は24年の全国大会で優勝。チアリーディングクラブや卓球部も全国大会に出場し、蜂をテーマにした研究が伝統の生物クラブは、国際大会の出場が決まっている。

多様な学び・体験の場が用意されている安田学園。志田副校長は最後にこう結んだ。「明治安田生命の方によるマネー教育など、芙蓉（ふよう）グループ企業との協働も増やしていきたいと考えています。本校ならではのこうしたプログラムも今後充実させていきたいですね」。



（写真右）個人探究は1年間ゼミ形式で行い論文の作成を行う。千葉大学でのプレゼンテーションの様子。（写真中）宿泊探究でデータを集め、安田祭で検証結果のポスタープレゼンを行う。（写真左）生物クラブは毎年全国大会に参加する強豪

SCHOOL DATA

設立	1923年	海外交流校	有	帰国生入試	無
併設校	安田学園高等学校	男女比	男54%　女46%		
生徒数	（1年）246名	交通	両国駅（JR総武線）徒歩6分 両国駅（都営地下鉄大江戸線）徒歩3分 蔵前駅（都営地下鉄浅草線）徒歩10分		
クラス編成	30～35名				
授業時間	8：15～15：00　（土）～12：30				
大学合格実績（過去3年間）	東京、東京工業、一橋、東京医科歯科、お茶の水女子、東京外国語、北海道、大阪、京都、神戸、九州、横浜国立、筑波、千葉、東京学芸、東京都立、早稲田、慶應義塾、上智、東京理科、東京基督教、学習院、明治、青山学院、立教、中央、法政など				

話を聞いた志田憲一副校長（右）と、工藤夏花教諭（左）

所在地▶〒130-8615　東京都墨田区横網2-2-25　TEL▶03-3624-2666　URL▶https://www.yasuda.ed.jp

2026_安田学園中学校様.indd　すべてのページ　2025/03/14　15:00